きもの文化の伝承をめざした教育プログラムのデザイン

教育デザインコース　家政領域
大　矢　幸　江

１．研究の背景と目的

今日の衣生活はほとんど洋装化され、和服文化は冠婚葬祭など人生の節目や季節のイベントにそのならわしが残る程度になっている。和服スタイルは単にその姿の継承だけでなく、日本に伝わる思いやりやもてなしの精神を受け継いでいくものでもある。新しいものばかりでなくよき伝統文化を継承し尊重しようとする機運が高まっている。2006 年の教育基本法の改正では伝統文化の尊重と継承の目標が示され、それを受けて中学校の技術・家庭科の学習指導要領では「和服の基本的着装を扱うこともできる」と記載された。生徒たちに伝統文化を尊重・継承する芽を育てるために、家庭科の授業で和服の着装をどのように扱うか模索されている。本研究では着装後どのような内容を扱うことが効果的か、校種による違いはあるかを検証し、効果的な授業を提案することを目的とし、中学校と高校でゆかたの着装を扱う授業実践を行った。

２．研究内容・方法

平成 25、26 年度、神奈川県内の中学及び高校５校でゆかた着装を含む授業を行い、その前後でアンケート調査を実施した(表１)。

表１．実施年度,校種,学年,回答数

学校名	年度	学年	男	女	合計
A 校	H26	県立高３	4	17	21
B 校	H26	県立高２	64	157	221
C 校	H25	附属中１	61	73	134
D 校	H25	公立中２	65	89	154
E 校	H26	公立中１	63	69	132

授業内容：着装姿を見て男女の違いや各部の名称を知る→男女の着つけの示範を見る→グループに分かれ TA と一緒に自分で着装→お辞儀などのワーク→たたみ方実習

授業前後のアンケート：**授業前**；①ゆかたや着物の経験 ②ゆかたや着物への興味関心 ③衣服への興味関心 ④伝統文化の経験　**授業後**；⑤楽しかった点 ⑥難しかった点 ⑦気づいたこと ⑧ゆかたの着つけ理解 ⑨ゆかたを着た時の気持ち ⑩ゆかたや着物についての考え

３．結果および考察

事前事後のアンケートから 40 項目について因子分析を行った結果、授業前２因子解、授業後４因子解が得られた。因子間の相関は、「拘束感」以外で深い相関が見られ、中でも「伝統文化関心」と「きもの文化興味,関心,高揚感」は最も関係が深かった。この学校間の共通点に対し、分散分析を行うと６因子すべてで学校間に有意差があった。因子分析で得られた因子を潜在因子、質問項目を観測変数としてパス解析を行うと中学は「服への興味関心」から「きもの文化興味,関心,高揚感」への係数が高いのに対し、高校は「ゆかたの理解習得」からが高かった。パス解析結果を図１に示す。

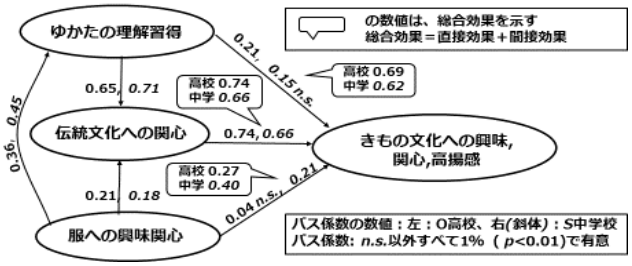

図１．中学、高校別の因子間のパス解析結果

解析結果と自由記述から：中学生はゆかたを着て日常とは違う自分に高揚感を感じている。理解習得よりも体験重視の体で感じる授業が有効であり、高校生は精神的成長度も高く理解習得の深まりから伝統文化への関心意欲を高めることができると考える。

授業提案：ゆかたを着装した後の授業内容として、中学生には体験的内容を重視した、お辞儀などの立ち居振る舞い、盆踊り、七五三などの通過儀礼などを学習する。高校生は理解から内容を深められるので、和服の文化面、構成面、主体的に行うファッションショーやテーマを持った調べ学習が伝統文化への深まりにつながる。

４．教育デザインフォーラムの発表を通して

実践内容などについて詳しい質問を受けた。関心を持って聞いて頂けたのではないかと思う。今後、授業担当教員へのインタビューも実施する予定である。